

研究・調査報告書

報告書番号	担当
260	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and abstention among pregnant Japanese women. 日本人妊婦におけるアルコール消費と禁酒	
執筆者	
Yamamoto Y, Kaneita Y, Yokoyama E, Sone T, Takemura S, Suzuki K, Kaneko A, Ohida T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol. 2008;18(4):173-82. Epub 2008 Jul 7	
キーワード	
飲酒 禁酒 妊娠 妊婦	
要 旨	
<p>目的： 日本人妊婦における飲酒状況および妊娠が判明した後に禁酒する妊婦の特性を明らかにするために、質問票に基づいた飲酒行動に関する全国調査を行った。妊娠中の飲酒および妊娠判明後に禁酒することに関する因子の検討も行った。</p> <p>方法： 無作為抽出後に 260 施設が本調査に参加した。それらは日本産婦人科医会 (Japan Association of Obstetricians and Gynecologists) によって規定された調査基点リストをもとに選択された。妊娠が確認されたものを対象として 2002 年 2 月 1 日から 14 日の間に無記名自記式質問票を用いて調査を行った。</p> <p>結果： 参加者の 11.1% が妊娠中に飲酒しており、76.9% が妊娠確認後より禁酒している、と報告した。高学歴は、妊娠中の飲酒および妊娠確認後の禁酒とのどちらとも有意に関連していた。また、飲酒は多産、喫煙、比較的短い睡眠時間と有意に関連していた一方、禁酒は飲酒頻度の低さ、飲酒の妊娠に及ぼす危険性に関する知識と有意に関連していた。</p> <p>結論： 日本人における妊娠中のアルコール消費 (飲酒) と妊娠確定後の禁酒に関連する因子が明らかになった。</p>	